

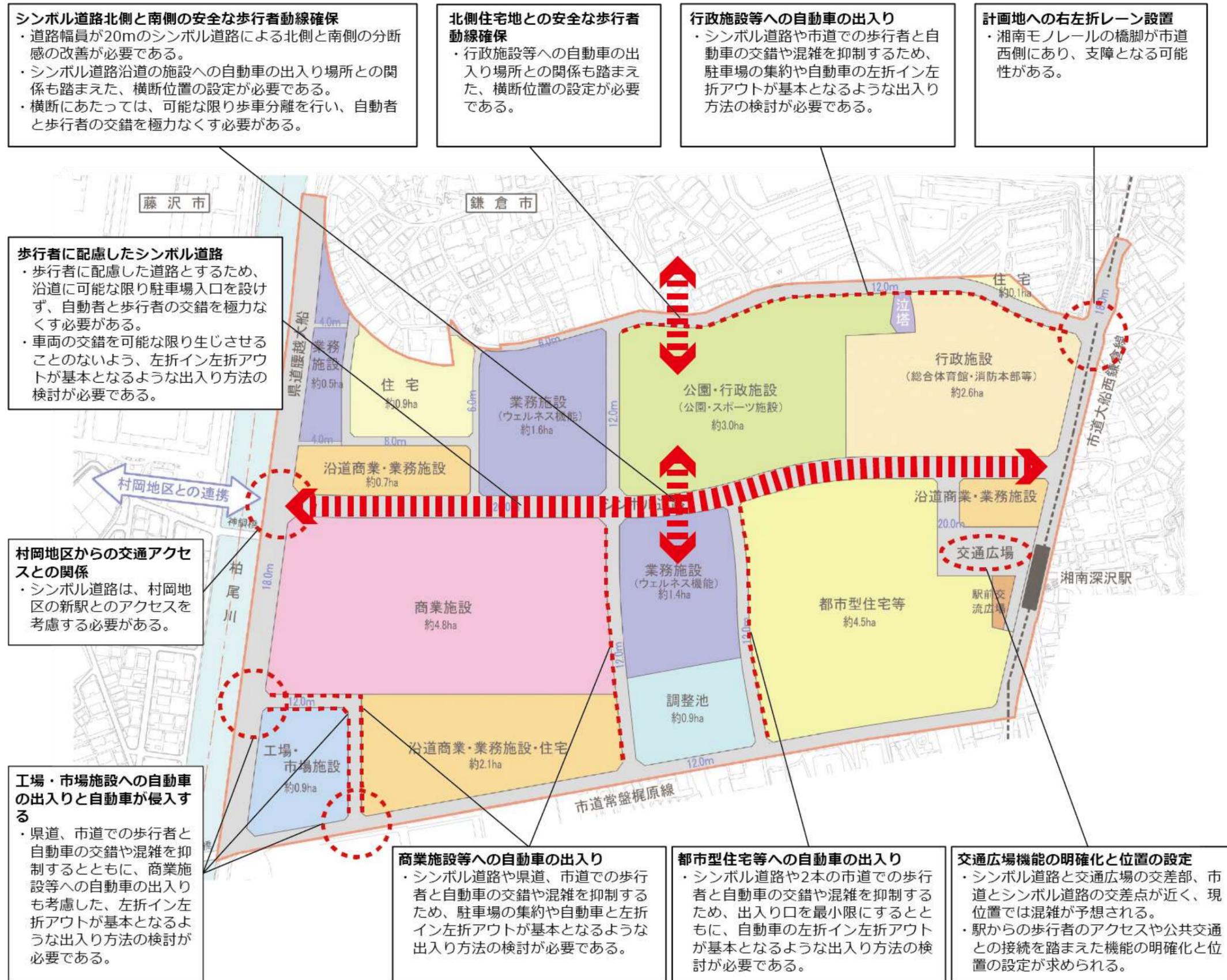
鎌倉市・深沢地区の現況・課題

1. 交通

1) 自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の現況・課題

(1) 深沢地区内

- 現在計画中の道路計画における交通上の課題は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）をできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とつながりとなっている。



1. 交通

(2) 深沢地区周辺

- 深沢地区外周道路の市道大船西鎌倉線、県道腰越大船線、市道常磐梶原線は、いずれも片側1斜線の交互通行であり、自動車によるアクセス性は高いが、広域からの自動車動線としては弱い。
- 深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉線（片側1車線）のみとなるため、大船駅方面と江ノ島方面を結ぶ県道腰越大船と県道藤沢鎌倉線と交差する手広交差点は、混雑すると想定される。
- 深沢地区東側は丘陵地帯であり、道路環境はあまり良くない。

(3) 深沢地区を含めた広域

- 深沢地区周辺の道路は、国道及び駅周辺の道路を中心に混雑度が1.0を超えている区間が多く見受けられる。平日・休日で交通量及び混雑度にほとんど差がない状況になっている。（下図参照）
- 村岡新駅西側では、都市計画道路横浜藤沢線の整備が進められており、これが完成すれば深沢地区から江ノ島方面へのアクセス性は向上すると考えられる。

■ 深沢地区周辺の道路の状況



出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>
(標準地図と色別標高図を重合せ、さらに加工して作成)

■ 周辺道路ネットワーク・混雑状況



出典：村岡・深沢地区総合交通戦略 資料編（平成28年3月）

■ 混雑度について

- 1.00以下：道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
- 1.00-1.25：道路が混雑する可能性のある時間帯が1～2時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は小さい。
- 1.25-1.75：ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。
- 1.75-2.00：慢性的混雑状態。昼間12時間のうち混雑する時間帯が約50%に達する。
- 2.00以上：慢性的混雑状態。昼間12時間のうち混雑する時間帯が約70%に達する。

1. 交通

2) 公共交通の現況・課題

(1) 鉄道

- 深沢地区で利用できる駅は、湘南モノレールの湘南深沢駅だけとなり、広域からのアクセスはJR大船駅経由となり、アクセスしにくい。ただし、村岡新駅が完成すれば、広域からのアクセス性は高まる。

(2) バス交通

- 深沢地区西側の県道腰越大船に「神戸製鋼前」バス停、東側の市道大船西鎌倉線に「大船工場」バス停、南側の市道常盤梶原線に「八丁目」バス停がある。
- 「神戸製鋼前」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、藤沢駅、江ノ島などにアクセスできる。
- 「大船工場」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、江ノ島などにアクセスできる。
- 「八丁目」バス停からは、藤沢駅などにアクセスできる。

(参考) 深沢地区周辺の骨格的な道路網について

(1) 都市計画道路横浜藤沢線

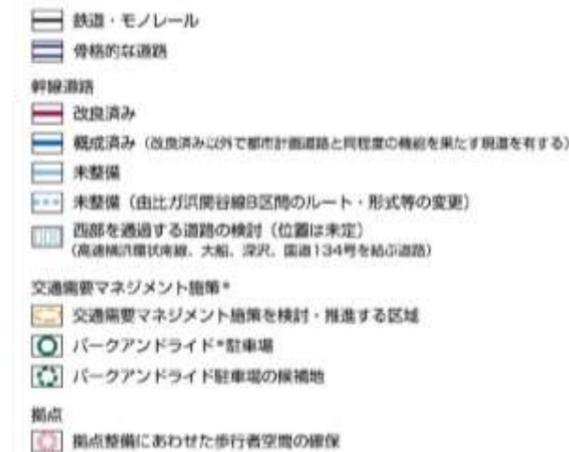
- 深沢地区の西側を南北に縦断している。
- 現在のところ、藤沢鎌倉線以南は未整備となっており、県、横浜市及び藤沢市と協調しつつ、整備の促進を図ることとされている。

(2) 市の西部を通過する骨格的な幹線道路の整備検討

- 大船駅周辺及び深沢地域国鉄跡地周辺の拠点整備及び海岸部の交通機能強化に対応するため、市街地環境や緑の保全、市街地の分断、沿道の修景・景観形成に配慮しつつ、海岸部から深沢地域国鉄跡地周辺を通り、高速横浜環状南線方面に抜ける骨格的な幹線道路の整備を検討する。
- この道路は、海岸部や丘陵部から深沢、大船方面へのアクセス向上、鎌倉地域への自動車流入抑制といった効果を持つ。
- 具体的なルートや構造については今後検討を行い、市民等に対して、その必要性・整備効果を十分説明し、合意形成を図った上で、具体的な都市計画としての手続を進める。

深沢地区最寄のバス停	運営会社	系統	行き先
神戸製鋼前 (神鋼橋周辺)	江ノ電バス(江ノ島電鉄(株))	藤沢駅～湘南車庫(片瀬山経由)	藤沢駅南口、湘南車庫
		藤沢駅～湘南車庫(手広経由)	藤沢駅南口、湘南車庫
		藤沢駅～長島	藤沢駅南口、長島
		鎌倉駅～湘南車庫	湘南車庫、鎌倉駅東口、長島
		藤沢駅～大船駅(手広経由)	大船駅東口交通広場、藤沢駅南口
		大船駅～江ノ島	江ノ島、大船駅東口交通広場
		大船～新鎌倉山循環	大船駅東口交通広場
		大船駅～津村	大船駅東口交通広場、津村
大船工場 (湘南モノレール湘南深沢駅直近)	京浜京急バス(株)	船2	大船駅、梶原
		船3	大船駅、富士見台
		船4	大船駅、鎌倉山
		船5	大船駅(西鎌倉経由)、諏訪ヶ谷(津村経由)
		船6	大船駅、江ノ島
		船7、8、9	大船駅、鎌倉駅(東口)
八丁目 (深沢地区南側)	江ノ電バス(江ノ島電鉄(株))	教養センター循環	藤沢駅南口、教養センター
		教養センター～藤沢駅	
		藤沢駅～笛田4番	笛田4番

※一般社団法人神奈川県バス協会ホームページでの一般路線バス検索により調査

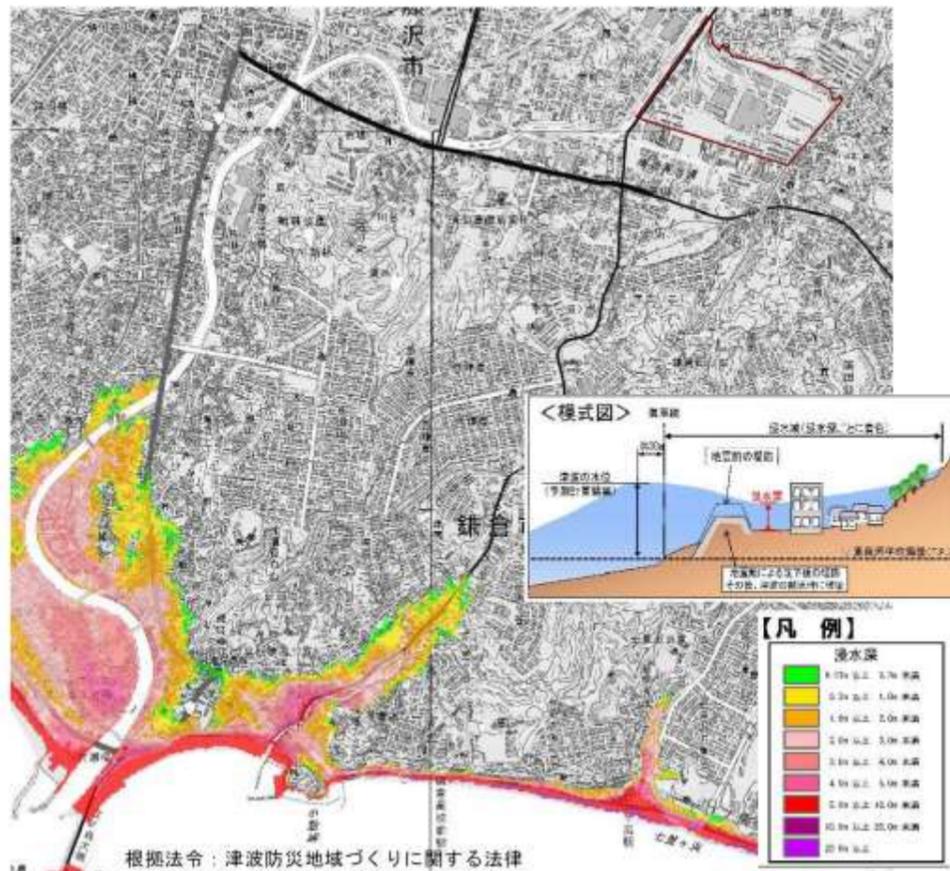


出典：鎌倉市都市マスタープラン（平成27年9月）（一部加筆）

2. 防災

(1) 津波

- 津波については、現在想定されている地震モデル以上の地震の発生は低く、河川遡上も含め、事業区域の危険性は非常に低い。



津波浸水想定図 (神奈川県H27年3月)

(2) 洪水・浸水

- 洪水浸水については、過去に実際に起こった年超過確率1/100 (24時間で302mm) の計画規模の降雨に対して、地区南西の工場・市場施設街区において、50 cm未満の浸水が想定されている。
- 一方、最大規模の想定である年超過確率1/1000 (24時間で632mm) の降雨に対しては、地区全域で0.5m未満～3 mの浸水、地区南西部では3 m～5 mの浸水が想定されている。



公団浸水想定図 (計画規模)

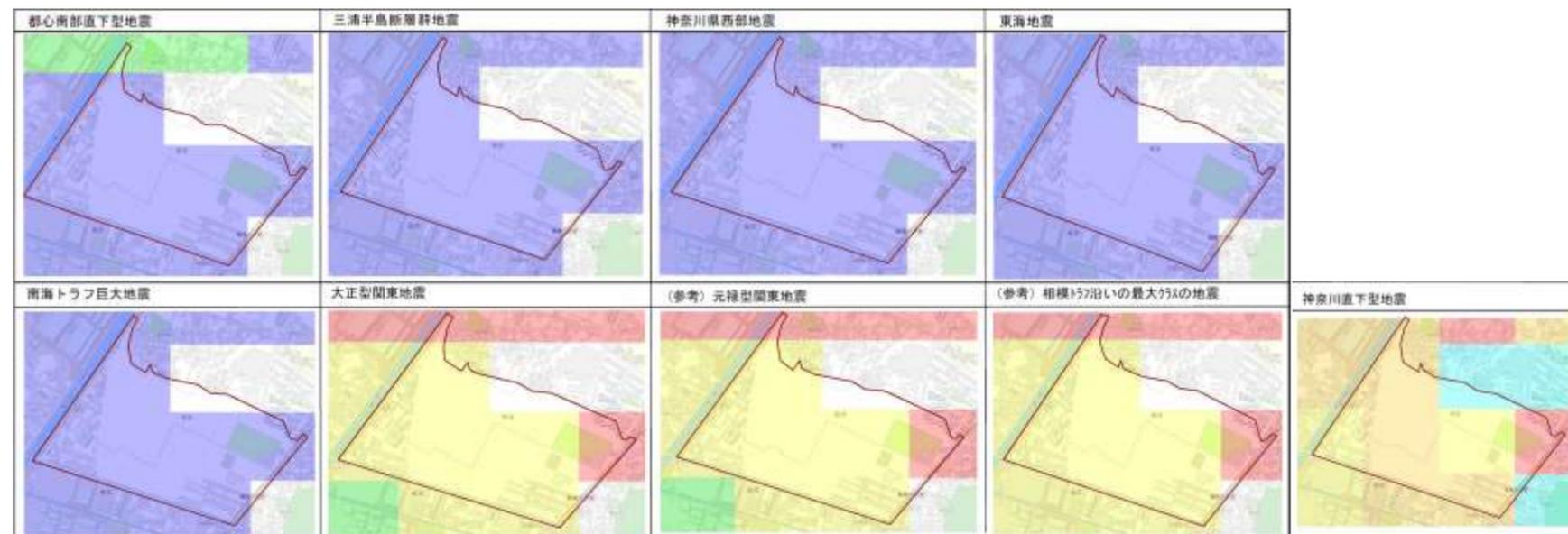


公団浸水想定図 (最大規模)

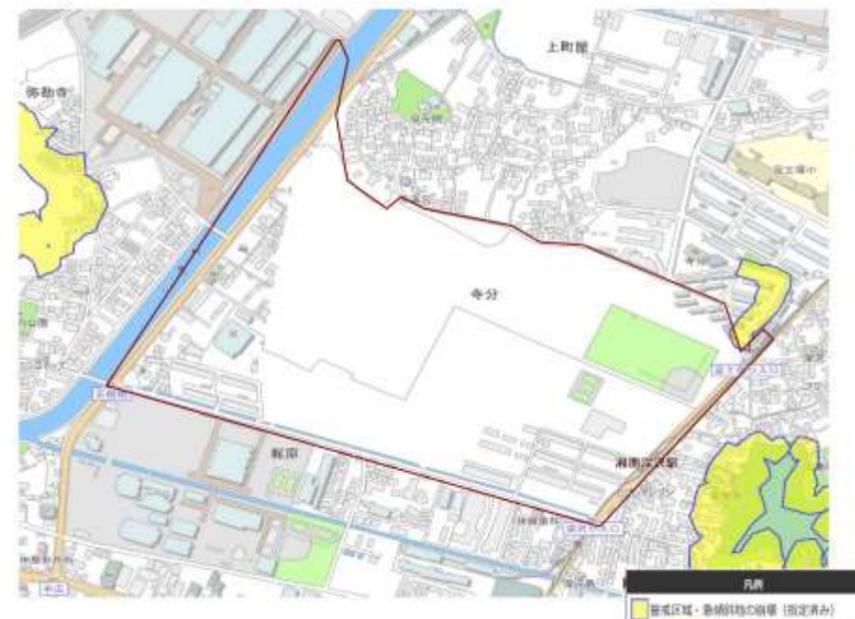
公団浸水想定図 (H29年造成計画との重ね図)

(3) 液状化

- 平成23年度に実施した地質調査等に基づいた液状化判定の結果において、地区南西部でFL> 1となり『液状化の可能性あり』という判定が出ているが、PL値は1.48となり『液状化危険度が低い』という判定となっている。



液状化想定図 (神奈川県e-かなマップ)



土砂災害危険箇所 (神奈川県e-かなマップ)

3. 環境

1) 自然環境

(1) 緑

- ・ 深沢地区は、緑の骨格に取り囲まれている。
- ・ 事業区域は、東西の緑地に挟まれている（御霊神社、等覚寺）。

(2) 水

- ・ 事業区域の西側に、柏尾川が隣接している。

※ 事業区域の南側に、梶原川が隣接しているが、道路機能の強化のためボックス化。

2) 歴史資源

(1) 洲崎古戦場碑

- ・ 1333年（元弘3年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時にこの地で激しく戦った。山崎・上町屋・寺分・梶原の一带を洲崎郷と呼んでいた。

(2) 泣塔

- ・ 丘の上に、泣塔と呼ばれる石造の宝篋印塔（ほうきょいんとう）と、その後ろのやぐらの中に数基の五輪塔がある。
- ・ これらの石塔は、1333年（元弘3年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時の洲崎の合戦における戦死者の霊を慰めるために、23回忌の1356年（延文元年）に建てられた供養塔であるといわれている。
- ・ 泣塔は、まとまったよい形の塔であるのに加え、基礎の石にはっきりと文和5年（1356年）の年号が刻まれており、塔そのものが文化財として大変価値のあるものである。

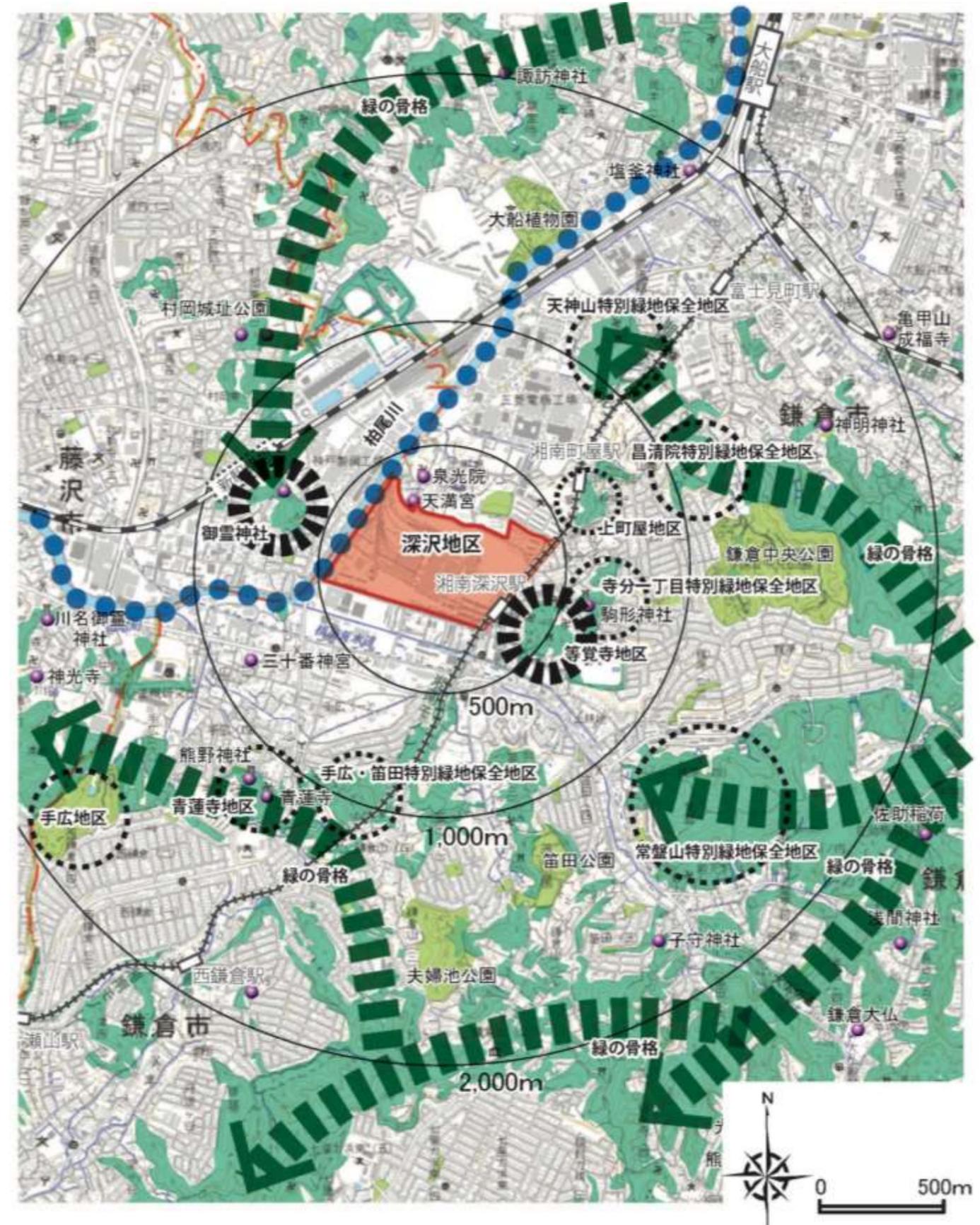
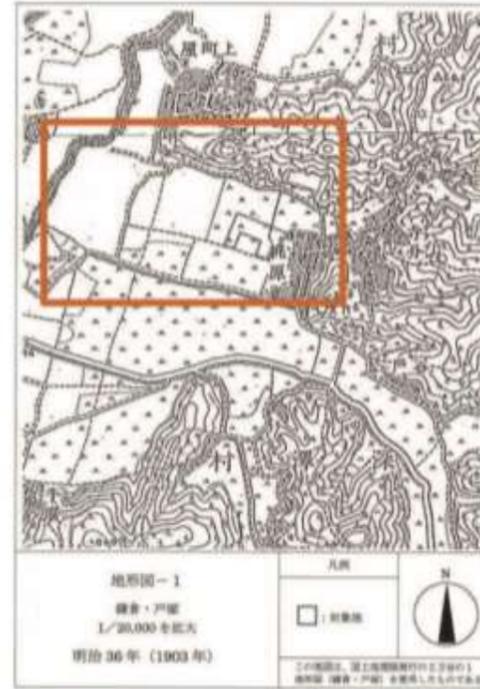
(3) 天満宮

- ・ 平安時代の天慶年間（938～946年）に、藤沢の村岡にいた平良文という武士が、夢のお告げで天神をまつたのがはじまりといわれている。

(4) 深沢の名前の由来

- ・ 江戸時代の『江島大草子（えのしまおおぞうじ）』に「鎌倉から海月（くらげ）（横浜市金沢区方面）にかけて長い湖があり、その周囲四十余里もあって、これを『深沢』と呼び、水を満々とたたえた」と書かれている。
- ・ 縄文時代以前は、今の深沢から大船にかけて深い入り江があったと考えられており、『深沢』の地名は、この湖に由来しているといわれる。

●明治時代は、田畑だった

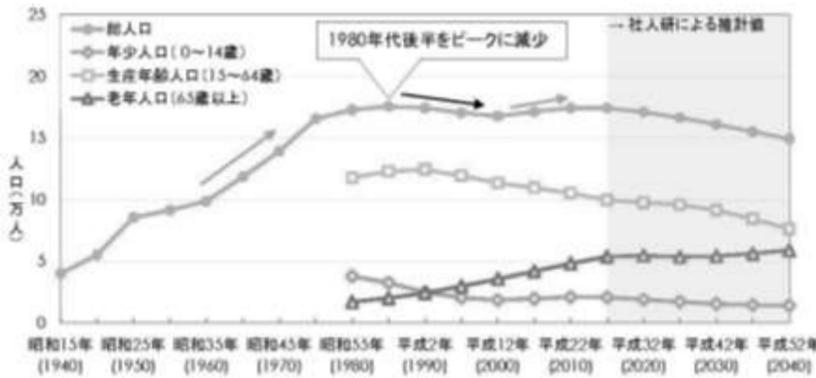


4. 社会（人口）

1) 鎌倉市の人口等の状況

(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

- 鎌倉市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値では、平成27（2015）年から減少する。
- 年齢3区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けるが、老年人口は継続して増加している。



国勢調査による実績値—社人研による推計値 (人)

	昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
総人口(人)	172,829	175,495	174,307	170,329	167,583	171,158	174,314	174,050	170,947	166,336	160,867	154,974	148,992
年少人口 (0~14歳)	人数 37,929	32,474	24,991	20,379	18,590	19,590	20,944	20,842	19,076	17,067	15,385	14,494	14,037
割合	22.0%	18.5%	14.4%	12.0%	11.1%	11.5%	12.0%	11.9%	11.2%	10.3%	9.6%	9.4%	9.4%
生産年齢人口 (15~64歳)	人数 117,642	122,811	124,241	119,254	113,409	108,607	105,184	99,654	97,402	95,783	91,376	84,284	76,102
割合	68.2%	70.0%	71.6%	70.4%	67.7%	63.9%	60.4%	57.3%	57.0%	57.6%	56.8%	54.4%	51.1%
老年人口 (65歳以上)	人数 16,967	20,136	24,212	29,777	35,573	41,722	48,108	53,754	54,469	53,486	54,106	56,196	58,853
割合	9.8%	11.5%	14.0%	17.6%	21.2%	24.6%	27.6%	30.9%	31.9%	32.2%	33.6%	36.3%	39.5%
老年人口比率	14.4%	16.4%	19.5%	25.0%	31.4%	38.4%	45.7%	53.9%	55.9%	55.8%	59.2%	66.7%	77.3%

出典：総務省統計局 国勢調査 昭和55（1980）年～平成22（2010）年の総人口（総人口数は外国人・年齢不詳を含んでいるが、年齢3区分別人口に関しては、年齢不詳人口を含めていない。）
社人研 日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月）平成27（2015）年以降の総人口

出典：鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月）

(2) 人口の将来展望

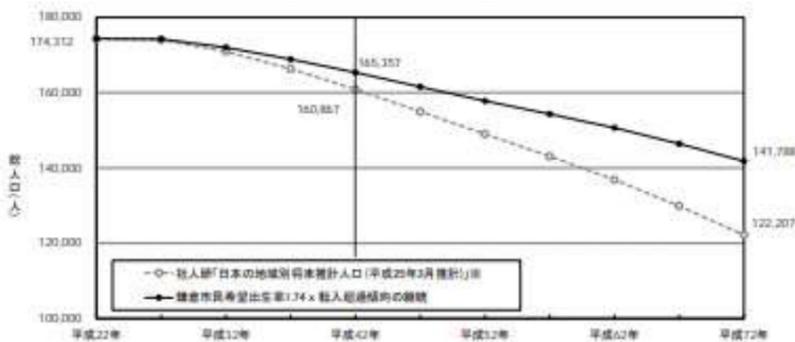
- 「働まち」、「住みたい・住み続けたいまち」鎌倉としての魅力を確立し、「出生率の向上による自然減の克服」と「転入超過の継続」が実現した場合、鎌倉市における将来人口は次のとおりとされている。

将来展望における鎌倉市の総人口	
平成42（2030）年	165,357人
平成72（2060）年	141,788人

将来展望の推計条件	
合計特殊出生率	出産等に関する希望が叶えられた場合、アンケート調査より導出される「希望出生率」1.74%が達成される。 ※2030年に達成として算出
社会移動率	ここ10年間の転入超過傾向が継続し、2010年→2015年の社会移動（年に600人程度増加）率が継続して推移する。

出典：鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月）

鎌倉市の将来人口推計



社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」に準拠し、平成52（2040）年以降の出生率、社会移動率を一定として算出した。

(3) 市内各地域の人口構成

- 深沢地域は、全市と比較して生産年齢人口の割合は低く、年少人口と老年人口の割合は高い。各割合は、その他の地域と比較して、大きく突出したものはない。

	深沢地域	鎌倉地域	腰越地域	大船地域	玉縄地域	全市
0-14歳	人数 4,154	5,469	2,584	5,306	3,042	20,555
割合	12.1%	11.4%	10.3%	12.0%	12.1%	11.7%
15-64歳	人数 19,361	26,610	13,862	26,910	15,028	101,771
割合	56.5%	55.7%	55.4%	61.0%	59.5%	57.7%
65歳以上	人数 10,732	15,722	8,591	11,882	7,168	54,095
割合	31.3%	32.9%	34.3%	26.9%	28.4%	30.7%

出典：平成30年9月末現在の地域別・町丁字別の年齢別人口（住民基本台帳）、位置図（いずれも鎌倉市ホームページ）

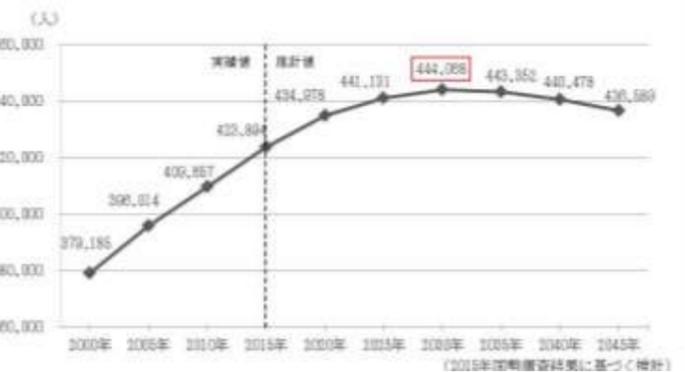


2) 藤沢市の人口等の状況

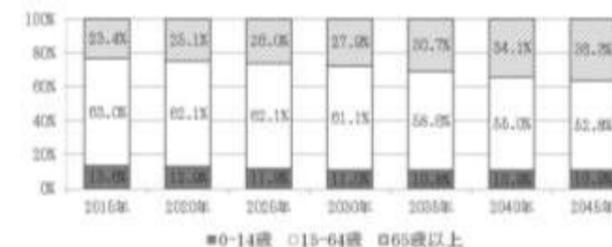
(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

- 藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2020年から減少する。
- 年齢3区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けるが、老年人口は継続して増加している。

2017年度藤沢市将来人口推計（総人口の推計）



年齢3区分別の構成比の推移



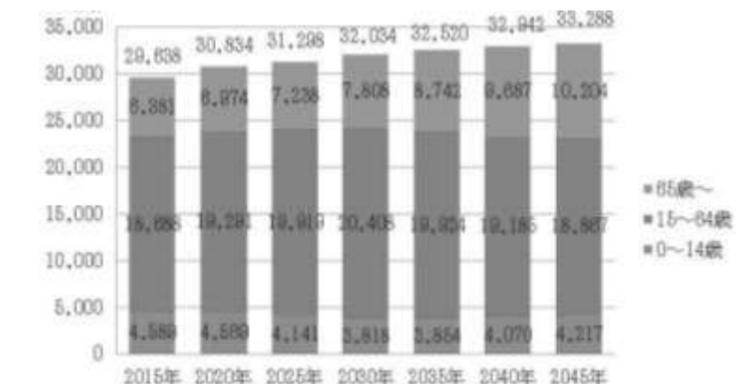
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0-14歳	57,642	55,896	52,394	48,847	47,688	47,794	47,699
15-64歳	267,015	270,094	273,949	271,470	259,683	242,297	230,503
65歳以上	99,237	108,988	114,788	125,751	135,991	150,385	158,387
合計	423,894	434,978	441,131	444,068	443,352	440,478	436,589

出典：藤沢市将来人口推計（平成30年4月）

(2) 村岡地区の人口推計

- 藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2045まで増加するとされている。
- 年齢3区分別の人口推移をみると、生産年齢人口は2030まで増加しそれ以降2045年まで減少、年少人口2030まで減少しそれ以降2045年までは増加、老年人口は継続して増加となっている。
- 地区別（全13地区）で見ると、2045年まで人口が増加するのは、村岡地区の他、藤沢地区、明治地区、六会地区、遠藤地区の4地区となっている。

村岡地区の年齢3区分別の構成比の推移



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0-14歳	15.5%	14.8%	13.2%	11.8%	11.8%	12.4%	12.7%
15-64歳	65.1%	62.8%	63.8%	63.7%	61.3%	58.2%	59.7%
65歳以上	21.5%	22.8%	23.1%	24.4%	26.8%	29.4%	30.7%

2045年まで人口が増加する5地区（赤枠）



出典：藤沢市将来人口推計（平成30年4月）

5. 産業

1) 鎌倉市の産業について

(鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年3月より))

(1) 民営事業所の産業別の事業所数及び従業者数と増減数

- 平成21(2009)年と平成26(2014)年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325件、従業者数で-1,967人と減少傾向となっている。
- 全体的に微増もしくはマイナスの変化をしている中、産業別にみると、「P 医療、福祉」で事業所が79件、従業者で2,271人の増加となっている。また、「O 教育、学習支援業」では、事業所が22件、従業者が518人の増加となっています。抱える従業者数をみると、「I 卸売業、小売業」「P 医療、福祉」「M 宿泊業、飲食サービス業」「E 製造業」が多くを占めている。

産業大分類	平成21年(2009)		平成26年(2014)		増減数(21年→26年)	
	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)
全産業	7,764	70,916	7,439	68,949	-325	-1,967
A~B 農林漁業	8	34	12	69	4	35
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0	0	0	0	0
D 建設業	525	3,162	455	1,992	-70	-1,170
E 製造業	256	8,807	218	7,964	-38	-843
F 電気・ガス・熱供給・水道業	2	135	2	123	0	-12
G 情報通信業	154	4,567	136	3,382	-18	-1,185
H 運輸業、郵便業	83	3,065	82	2,483	-1	-582
I 卸売業、小売業	2,144	14,269	2,050	14,033	-94	-236
J 金融業、保険業	100	1,202	92	1,309	-8	107
K 不動産業、物品賃貸業	866	2,731	779	2,359	-87	-372
L 学術研究、専門・技術サービス業	420	4,133	367	4,316	-53	183
M 宿泊業、飲食サービス業	1,282	9,948	1,257	9,746	-25	-202
N 生活関連サービス業、娯楽業	578	3,173	582	3,018	4	-155
O 教育、学習支援業	336	3,168	358	3,686	22	518
P 医療、福祉	559	9,233	638	11,504	79	2,271
Q 複合サービス事業	27	271	26	408	-1	137
R サービス業(他に分類されないもの)	424	3,018	385	2,557	-39	-461

出典：総務省統計局経済センサス(平成21(2009)年・平成26(2014)年)

2) 鎌倉市の雇用や就労等の状況

- 就業者数における産業別特化係数* (1.0を超えると全国平均よりも雇用の場が提供されている)を比較すると、男性では「G 情報通信業」が際立って高い傾向にある。続いて、男女ともに「L 学術研究、専門・技術サービス業」が高い数値を示しており、次いで「M 宿泊業、飲食サービス業」が高くなっている。
- 「M 宿泊業、飲食サービス業」の産業別特化係数が上位になっている比較都市は、他に藤沢市(女性)・小田原市(男女)のみであり、観光地としての特徴がみられる。

* 産業別特化係数：X産業の特化係数 = 当該地方公共団体のX産業の就業者比率 ÷ 全国のX産業の就業者比率。(地方人口ビジョンの策定のための手引き 平成27(2015)年1月内閣府地方創生推進室)

	鎌倉市	
	男	女
A 農業、林業	0.24	0.12
B 漁業	0.38	0.41
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0.00	0.00
D 建設業	0.68	0.63
E 製造業	0.97	0.63
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0.93	0.52
G 情報通信業	2.20	1.27
H 運輸業、郵便業	0.86	0.52
I 卸売業、小売業	0.82	1.07
J 金融業、保険業	0.63	0.82
K 不動産業、物品賃貸業	1.47	1.53
L 学術研究、専門・技術サービス業	2.11	1.58
M 宿泊業、飲食サービス業	1.60	1.45
N 生活関連サービス業、娯楽業	1.12	0.89
O 教育、学習支援業	1.29	1.42
P 医療、福祉	1.40	1.10
Q 複合サービス事業	0.61	0.72
R サービス業(他に分類されないもの)	0.95	0.81
S 公務(他に分類されるものを除く)	0.89	1.43
T 分類不能の産業	0.72	0.81

出典：総務省統計局国勢調査(平成22(2010)年)

2) 深沢地区周辺の主な企業分布について

- 深沢地区周辺には、グローバル企業の関係機関が立地し、近年機能強化を行う関係機関もある。
- 武田薬品工業による湘南アイパークの開所、湘南鎌倉医療病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学(仮称)の開学(予定)によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進む。

武田薬品工業(藤沢市にまたがって立地)

- 昭和38年開設の湘南工場を平成18年に閉鎖、その後平成23年に工場跡地に湘南研究所を開設
- 平成30年4月にヘルスケアにおけるオープンイノベーションを推進するため、湘南ヘルスイノベーションパーク(湘南アイパーク)を開所、2023年度までに同施設に200社を誘致する目標を掲げている

湘南鎌倉総合病院

- 医療法人沖繩徳洲会が運営
- 病床数619床の鎌倉市内最大の病院
- 救命救急センター指定病院、神奈川県災害協力病院、神奈川県DMAT-L指定病院等の指定を受ける
- 2021年末に隣接する武田薬品工業湘南研究所の敷地を一部取得、先端医療センターを建設予定



神戸製鋼所

(藤沢市に立地)

- 現在は藤沢事業所になっている
- 昭和36年に藤沢工場として開設
- 溶接材料において国内でトップシェアを誇る溶接事業部門の研究開発拠点

中外製薬

- 鎌倉研究所が立地
- 2022年に横浜市戸塚区に先端的研究開発拠点新設予定

三菱電機

- 鎌倉製作所が立地
- 主な業務内容は、人工衛星、宇宙用輸送システム等
- 人工衛星の開発・製造など宇宙システム事業を強化するため、人工衛星の組み立てから試験までを行う「新衛星生産棟」を建設、2019年10月に稼働させる予定

湘南鎌倉医療大学(仮称)

- 2020年4月に開学予定
- 看護学部・看護学科(入学定員100名)を設置予定
- 学校法人徳洲会(仮称)が運営予定

5. 産業

3) 鎌倉駅周辺へのIT関連企業の集積

- 鎌倉市唯一の上場企業である面白法人カヤックをはじめとするIT関連企業が鎌倉地域に集積。
- 面白法人カヤックは、地域社会への取り組みとして、「カマコン」（地元IT関連企業等による地域活性化の活動）を展開。有限責任事業組合（LLP）を2013年春に設立（会員企業は昨年10月時点で21社、個人会員は66人）。
- 「カマコン」から、鎌倉をよりよくするための活動に絞って、インターネット経由で小口資金を集める、クラウドファンディングサイト「iikuni（いいくに）」が生まれ、これをきっかけに起業する「エコシステム」も生まれた。
- このように状況にあるが、オフィスビルが少なく、開発する土地も限られていることから、オフィスビルの不足が課題となっている。



出典：日本経済新聞（平成27年1月5日）
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO81723040Y5A100C1X1100/>

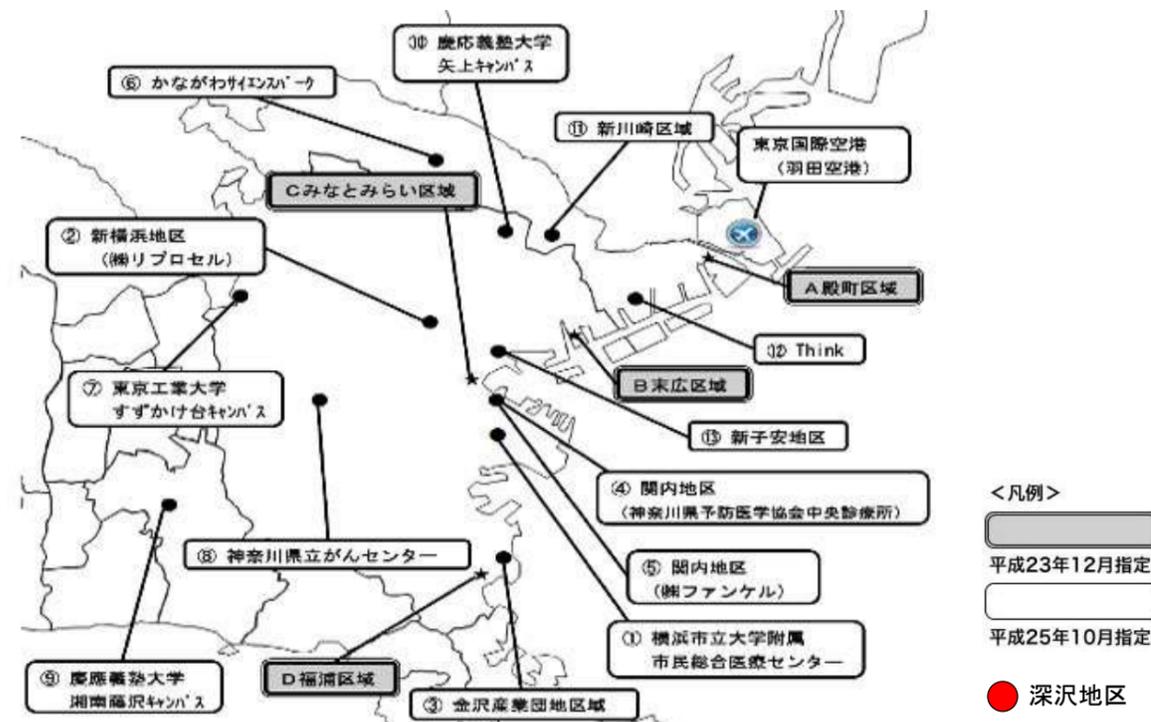
4) 神奈川県における特区の状況

- 鎌倉市は、京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置するとともに、京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区の17拠点に内包されるような場所に位置している。

鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区との位置



鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区に現在指定されている17拠点



6. 健康・スポーツ

1) 鎌倉市の健康

(1) 平均寿命と健康寿命

- 鎌倉市の平均寿命（65歳時の平均余命）は、男性が84.84年、女性が89.74年で、県内でも上位になっています。
- 鎌倉市の健康寿命は、男性が83.16年、女性が85.97年です。
- 平均寿命と健康寿命の差（日常生活における不健康な期間）は、男性が1.67年、女性が3.78年となっています。

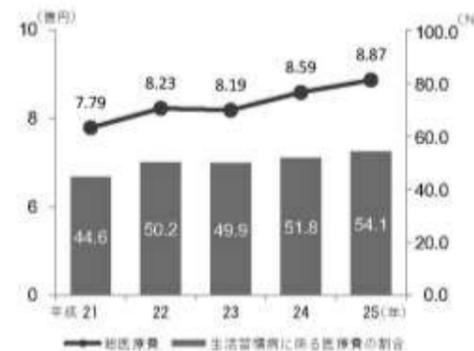
		平均寿命	健康寿命	平均寿命-健康寿命
鎌倉市	男性	84.84	83.16	1.67
	女性	89.74	85.97	3.78
神奈川県	男性	84.08	82.34	1.73
	女性	88.92	85.31	3.61
全国※	男性	79.55	70.42	9.13
	女性	86.30	73.62	12.68

※健康日本21（第2次）で公表されているもの

出典：鎌倉市健康づくり計画（平成28年3月）

(2) 総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合

- 鎌倉市国民健康保険被保険者の総医療費は、年々、増加しており、平成25年（5月診療分）では約8億9千万円となっています。
- そのうち、生活習慣病に係る医療費は約半分を占めており、その割合も増加傾向にあります。高齢者人口の増加に伴って、今後もさらに増加することが予測されています。

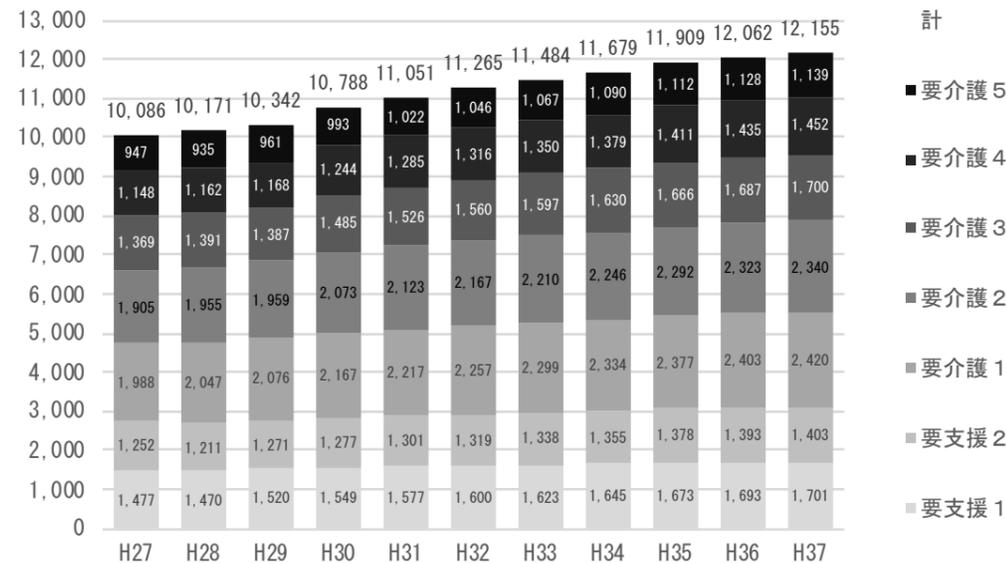


出典：鎌倉市健康づくり計画（平成28年3月）

(3) 介護が必要な高齢者の将来予測

(平成29(2017)年度) → 平成37(2025)年度の比較

- 鎌倉市国民健康保険被保険者の総医療費は、年々、増加しており、平成25年（5月診療分）では約8億9千万円となっています。
- そのうち、生活習慣病に係る医療費は約半分を占めており、その割合も増加傾向にあります。高齢者人口の増加に伴って、今後もさらに増加することが予測されています。



出典：鎌倉市高齢者保健福祉計画（平成30年度～平成32年度）（平成30年3月）

2) スポーツ

(1) スポーツ施設・公園について

●主なスポーツ施設の現況と再配置計画



●公園の現況

(鎌倉市公共施設再編計画等より)



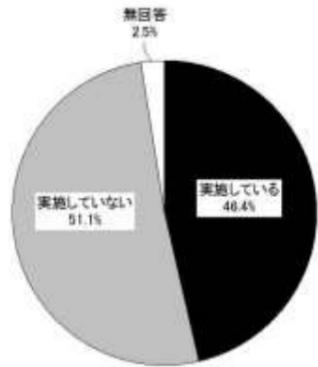
6. 健康・スポーツ

(2) 市民のスポーツに対する意識

●スポーツ実施率

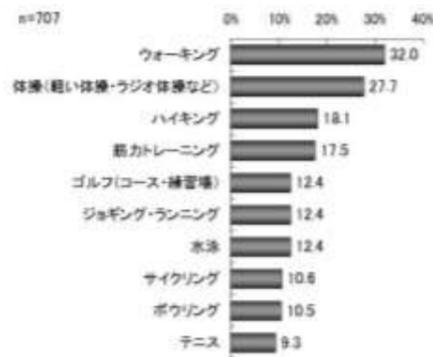
- 市民の半数以上が、運動習慣がない。

1回30分以上の運動・スポーツを週1日以上実施している人の割合



●過去1年間に行った運動・スポーツ

- ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキングとなっている。

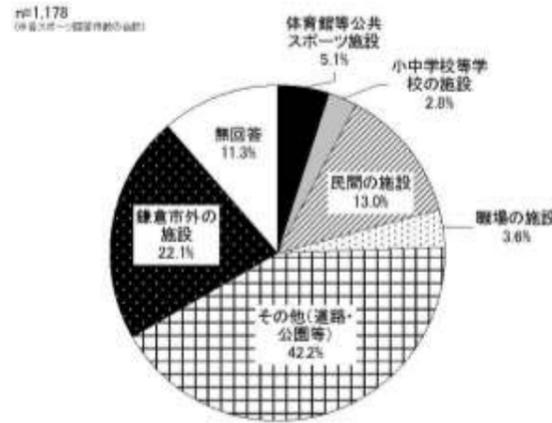


●スポーツの実施回数、実施時間

- 過去1年間に運動・スポーツを行った人について、週あたりの実施回数は、平均で3.52回となっている。「体操(軽い体操・ラジオ体操など)」が最も多く、次いで「ウォーキング」「筋力トレーニング」となっている。
- 運動・スポーツの実施時間は、週あたりの平均で約247分(約4時間程度)となっている。「ウォーキング」が最も長く、次いで「サイクリング」「テニス」「ゴルフ(コース・練習場)」となっている。

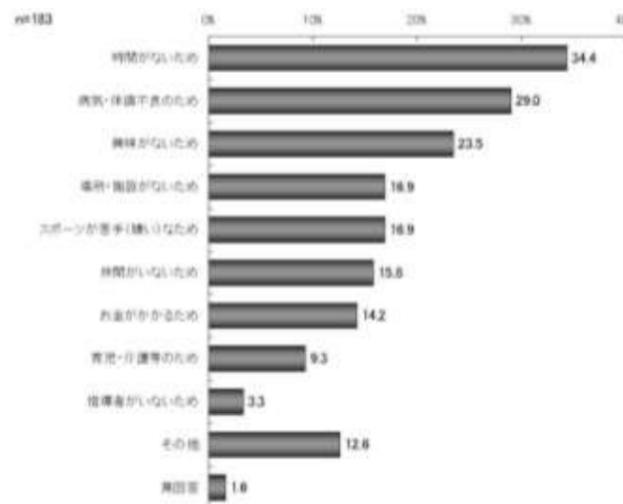
●スポーツを行う際に利用している施設

- 利用している施設について、全体では「その他(道路・公園等)」(42.2%)が4割を超え最も高くなっている。



●スポーツを行わない理由

- 「時間がないため」(34.4%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「病気・体調不良のため」(29.0%)、「興味がないため」(23.5%)の順が続いている。「1年間スポーツは行わなかった」と回答した人が回答)

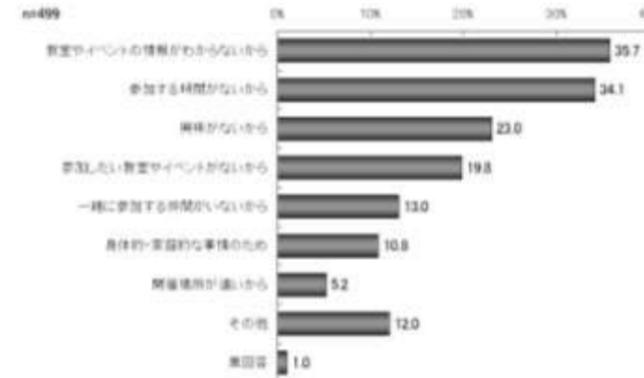


●スポーツ教室やイベントなどへの参加状況

- 「参加したことがない」が7割(70.6%)を超える。

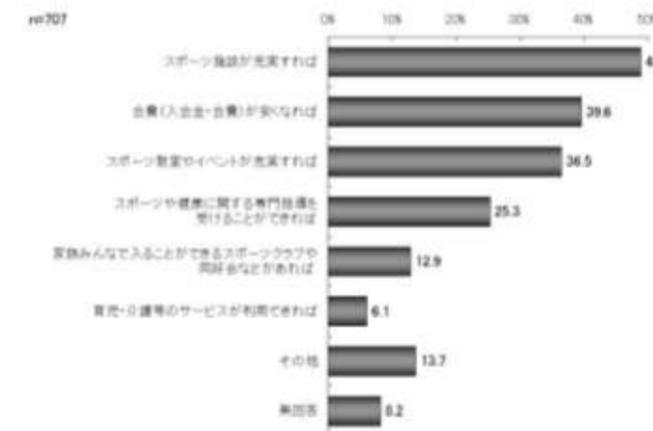
●スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由

- スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由を聞いたところ、「教室やイベントの情報がわからないから」(35.7%)、「参加する時間がないから」(34.1%)が3割半ばで高くなっている。



●スポーツに対するこれからのニーズ(必要性)について

- どのような条件が整えばより一層スポーツを行うようになると思うか聞いたところ、「スポーツ施設が充実すれば」(48.9%)が5割近くで最も高くなっている。

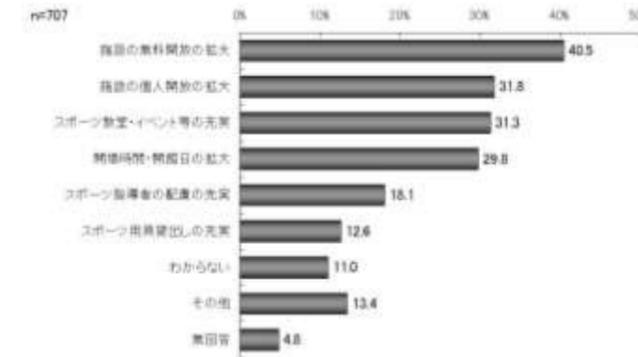


●スポーツ施設の利用

- 3割以上の方が「利用したことがない」と回答しており、その理由として「機会がない」「時間がない」「興味がない」「家から遠い」などがあげられている。

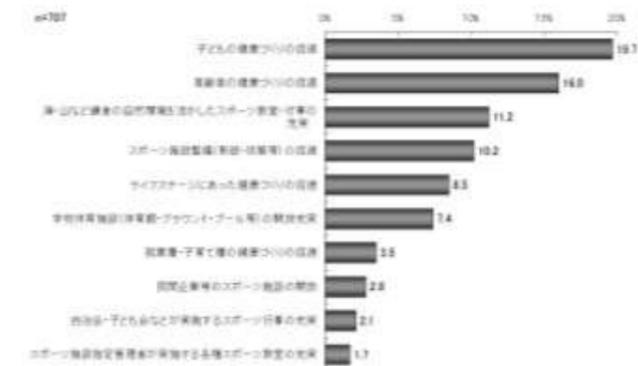
●スポーツ施設の利用条件

- 「施設の無料開放の拡大」(40.5%)がほぼ4割で最も高くなっている。



●今後のスポーツ施策の推進について

- 市民のスポーツ活動を推進するために重視すべき施策については、「子どもの健康づくりの促進」(19.7%)が最も高く、次いで「高齢者の健康づくりの促進」(16.0%)となっている。



出典：市民のスポーツ活動に関するアンケート調査(平成25年度実施)

7. 現況・課題からコンセプトの具体化や修正土地利用計画再点検で求められる内容

項目		現況・課題の概要	コンセプトの具体化や修正土地利用計画再点検で求められる内容	
交通	自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の課題	深沢地区内	<ul style="list-style-type: none"> 現在の道路計画は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）をできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とつながりが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者が安全で快適に通行できる環境の実現 上記に資する自動車交通処理に関するハード・ソフト両面からの対策
		深沢地区周辺	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区外周道路は、いずれも片側1斜線の交互通行であり、広域からの自動車動線としては弱い。 深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉線（片側1車線）のみで手広交差点は混雑が想定される。 深沢地区東側は丘陵地帯であり、道路環境はあまり良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新交通システムの導入などによる深沢地区周辺とのアクセス性の向上 周辺道路の混雑緩和に資する自動車交通処理の実現
		深沢地区を含めた広域	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区周辺の道路は、平日・休日では交通量及び混雑度にほとんど差がない状況。 村岡新駅西側の都市計画道路横浜藤沢線が完成すれば深沢地区から江ノ島方面へのアクセス性は向上。 	
	公共交通の現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道 バス 	<ul style="list-style-type: none"> 村岡新駅を拠点とした、新交通システムの導入も含めた、交通結節拠点の形成 	
防災	津波	<ul style="list-style-type: none"> 現在想定されている地震モデル以上の地震の発生は低く、河川遡上も含め、事業区域の危険性は非常に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 津波、洪水・浸水、液状化、土砂災害の現況や想定を踏まえた、安心・安全なまちづくりに資するハード・ソフト両面からの対策 	
	洪水・浸水	<ul style="list-style-type: none"> 過去に実際に起こった年超過確率1/100（24時間で302mm）の計画規模の降雨に対して、地区南西の工場・市場施設街区において、50cm未満の浸水が想定されている。 一方、最大規模の想定である年超過確率1/1000（24時間で632mm）の降雨に対しては、地区全域で0.5m未満～3mの浸水、地区南西部では3m～5mの浸水が想定されている。 		
	液状化	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に実施した地質調査等に基づいた液状化判定の結果において、地区南西部でFL>1となり『液状化の可能性あり』という判定が出ているが、PL値は1.48となり『液状化危険度が低い』という判定となっている。 		
	土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> 事業用地の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。ただし、当該箇所は、今後擁壁を整備していく計画である。 		
環境	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区は、御霊神社、等覚寺など緑の骨格に取り囲まれている。 深沢地区西側に柏尾川、南側に梶原川が隣接（ただし、梶原川は道路機能強化のためボックス化）。 	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区周辺の生態系や歴史を活かした緑や空間づくり 	
	歴史資源	<ul style="list-style-type: none"> 洲崎古戦場碑、泣塔、天満宮など歴史資源がある。泣塔は当地区内にある。 		
社会（人口）	鎌倉市・深沢地区	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉市の人口は既に人口減少の局面に入っており、今後減少していくことが想定される。 深沢地域は市全体と比較して、老年人口の割合（31.3%（平成30年9月））はやや高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区の新住民と旧住民が住んで良かったと感じられるまちづくり 来街者にとっても魅力のあるまちづくり 地域のコミュニティを育てる取組の実施（エリアマネジメント公共空間の維持管理、イベントなど） 	
	藤沢市・村岡地区	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢市の人口は、2020年から減少すると想定されている。 村岡地区は2045年までは人口が増加すると想定されるが、老年人口の割合上昇していく。 		
産業	鎌倉市	<ul style="list-style-type: none"> 平成21（2009）年と平成26（2014）年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325件、従業者数で-1,967人と減少傾向。 鎌倉市は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置。 鎌倉駅周辺へのIT関連企業の集積やカマコンの取組。 	<ul style="list-style-type: none"> 特区や深沢地区周辺のヘルスケアや医療機能の集積を踏まえた、ヘルスケア産業などの集積 鎌倉駅周辺へのIT関連企業との連携や立地 	
	深沢地区	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区周辺には、グローバル企業との関係機関や近年機能強化を行う関係機関も立地。 湘南アイパークの開所、湘南鎌倉医療病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学（仮称）の開学（予定）によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進む。 		
健康・スポーツ	健康	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉市の平均寿命、健康寿命は、県平均より高く、平均寿命は県内でも上位。 高齢者人口の増加に伴って、医療費や介護が必要な高齢者は増加していくと想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸及び平均寿命と健康寿命の差の縮小 総合体育館などの新たな施設整備を踏まえた健康・スポーツのソフトの取組などの推進 ウォーキングによる健康づくりの促進 歩きたくなる空間づくり（ハード）や仕掛けづくり（ソフト） 	
	スポーツ（施設や市民意識）	<ul style="list-style-type: none"> 深沢地区に総合体育館（屋内プールを併設）を新設予定。 市内の公園は自然的な公園は多いが、都市的な公園は不足。 スポーツに対する市民の意識については、市民の半数以上が、運動習慣がないと回答。過去1年間にいった運動・スポーツは、ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキング。（市民のスポーツ活動に関するアンケート調査（平成25年度実施）） 		